

## 学校評価アンケートの結果から ～よりよい春日野小学校の教育を目指して～

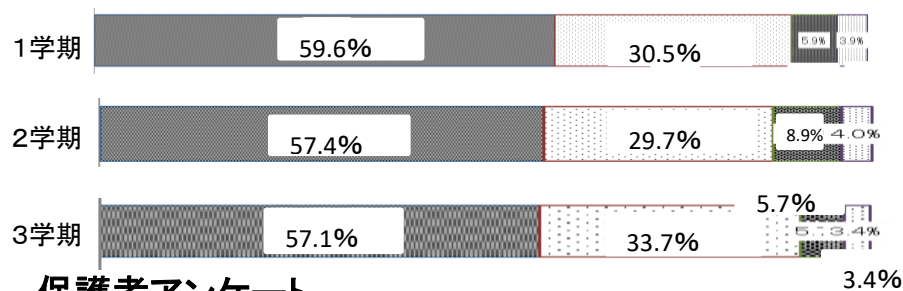
保護者アンケートや児童によるふりかえりアンケート・教職員の自己評価の結果から本校の取組について分析や検討を行いました。その結果をもとに、さらなる春日野小学校の教育の充実と発展を目指していきたいと考えています。アンケートのご協力ありがとうございました。

## 結果の見方(パーセント表示)

■よく出来ている ■大体出来ている ■あまり出来ていない ■出来ていない

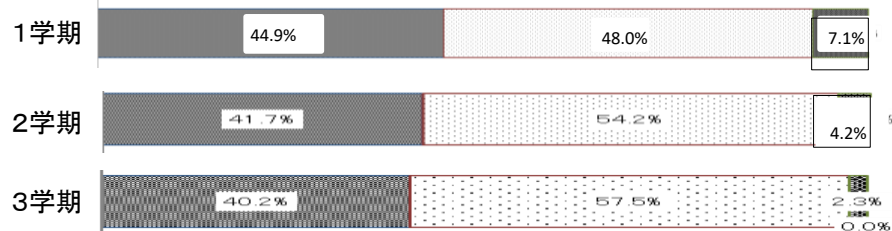
## 児童アンケート

学校生活が楽しい。



## 保護者アンケート

学校生活を楽しく送っている。

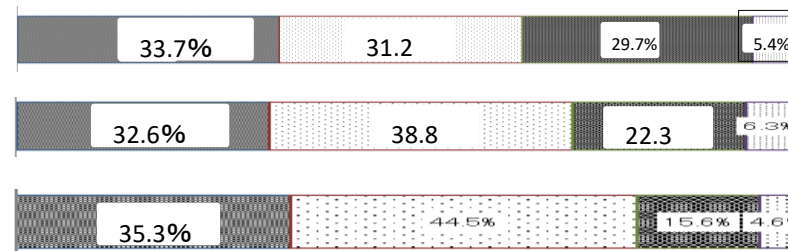


## 【学校生活の楽しさ】

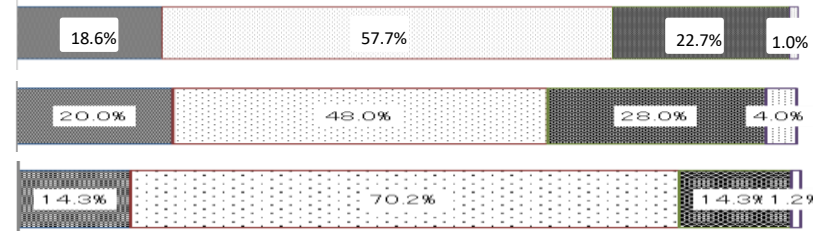
児童では、年間を通して「学校が楽しい」と約90%が回答しています。「楽しくない」と回答している児童は1, 2学期よりも3学期の割合が4%低い結果になりました。

保護者では、1学期～3学期にかけて少しずつ「楽しく過ごしている」と回答した方が増加しました。学習・友達との時間・休み時間等、児童にとっての楽しみは様々ですが、今後もより楽しい授業の工夫と、良好な人間関係づくりができるように支援をしていきたいと思っています。また、「楽しくない」と回答している児童への声かけや支援を行い、一人でも多くの児童が楽しい学校生活を送れるように努めていきたいと考えています。

自分から元気よくあいさつをしている。



自分から進んであいさつをしている。



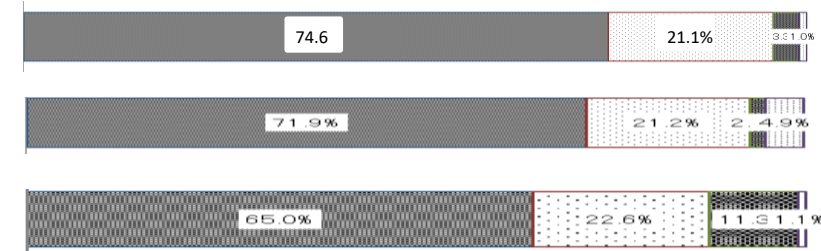
## 【あいさつ】

児童では、1学期から3学期にかけて「自分から元気よくあいさつをしている」と回答している児童が増加しました。

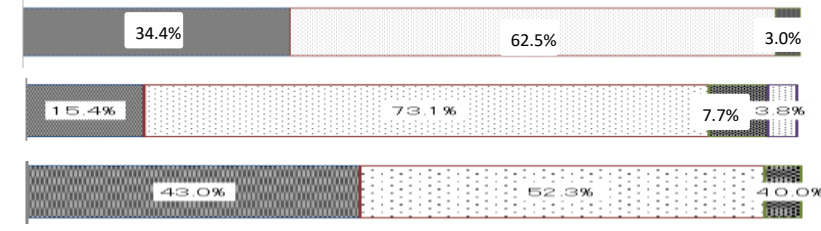
保護者でも、2学期に比べると3学期は、「あいさつをしている」と回答している方が15%も増加しています。このことから家庭や地域で児童が進んであいさつをすることができるようになってきていることがわかります。

一方、教職員アンケートでは、「できている」が30%、「あまりできていない」が65%という結果となりました。結果の相違は、全ての保護者の方の結果ではないことも原因に挙げられますが、朝、校門前に立った時に様子を見てみると、自分から元気よくあいさつをしている児童は、それほど多くはないと感じています。教職員が手本となり、すすんであいさつをするなどの清々しさを伝えていけたらと思っています。

友達と仲良くしている。



優しさや思いやりが育ってきている。



## 【友達関係と思いやり】

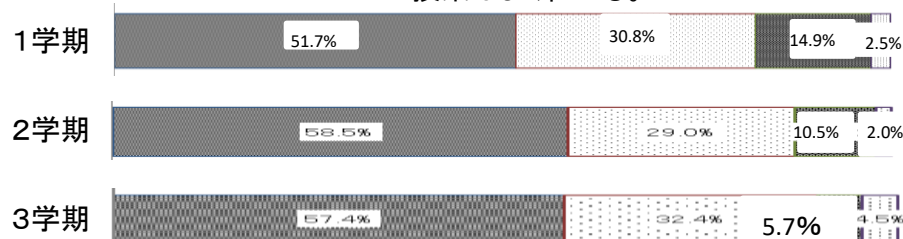
児童では、「仲良くしていない」と回答した児童が増えていることが気にかかります。前回から5%程増加し、12%がそのように回答しています。長く一緒に過ごしていると、意見が合わなかったり、ケンカをしてしまったたりし、お互いに嫌な思いをすることもあると思います。トラブルになった時にうやむやにしたり、あきらめてしまったりせずに、ちゃんと話し合ったり、家族や友達、先生に相談したりし、解決の糸口を見つけ、最後は自分で考えて行動していくことが大切だと思っています。学校でも、子どもが相談できる関係をつくと共に、子どもの思いに寄り添いサポートしていきたいと思っています。

保護者では、95%以上の方が「思いやりが育ってきている」と回答されており、子どもの心の成長を感じておられる方が多いことがわかりました。

## 【授業について】

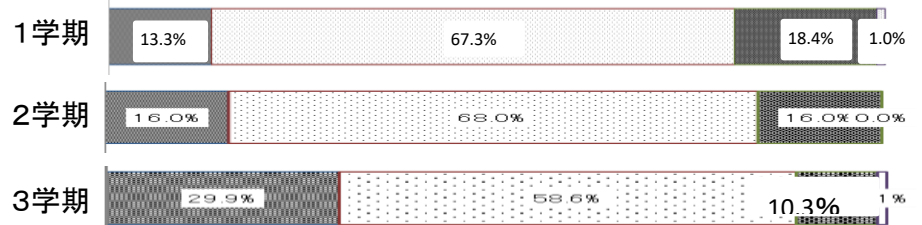
### 児童アンケート

授業はよくわかる。



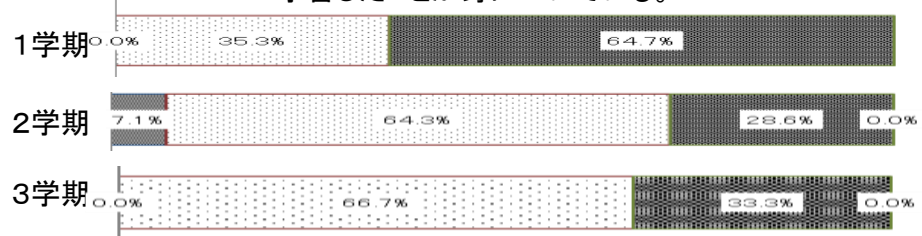
### 保護者アンケート

学習したことが身についている。



### 教職員アンケート

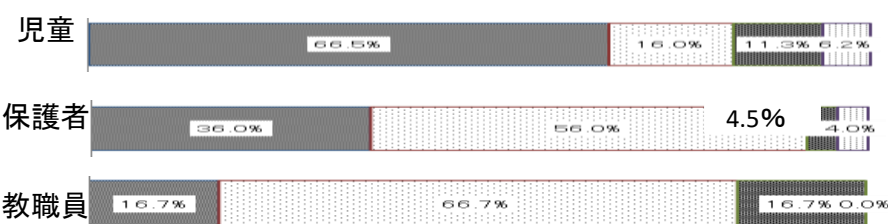
学習したことが身についている。



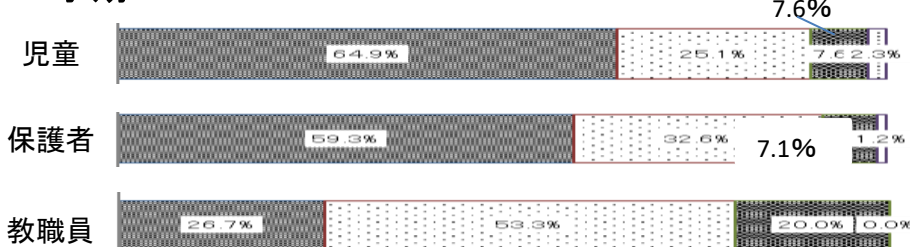
## 【宿題について】

### 2学期

宿題を毎日している。



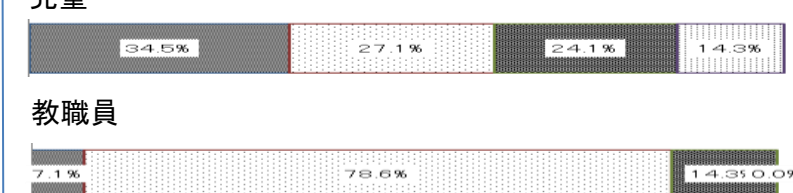
### 3学期



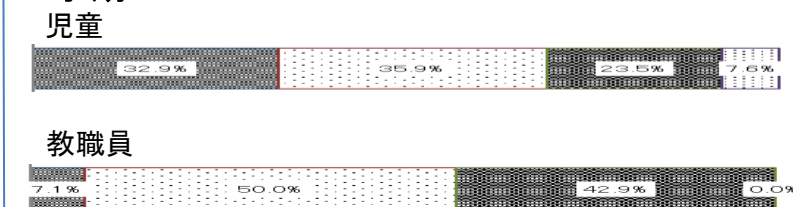
## 【発表について】

### 2学期

授業中、進んで発表している。



### 3学期



## 【学習について】

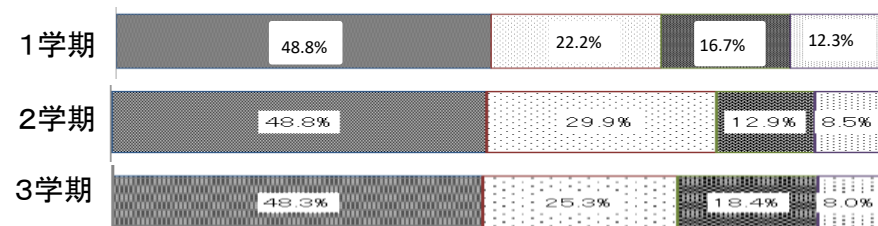
児童では「授業がよくわかる」が年間を通して7%増加しました。授業や宿題等を積み重ね、「授業がわかる」と回答している児童が増えたことをうれしく感じています。保護者でも「学習したことが身についている」と回答した方が、8%増加しています。

一方、教職員では「あまり身についていない」と33%が回答しています。単元テストの点数では80点や90点が取れていても、まとめのテストやジョイントプログラムでは、習ったことを忘れてしまっていることもあるため、このように結果に大きな差が表れたと考えています。今後も、子どもたちが「わからない」をそのままにせず、学んだことを次の学習へ生かしていけるような工夫が必要だと感じています。

## 【子どもの話を聞くことについて】

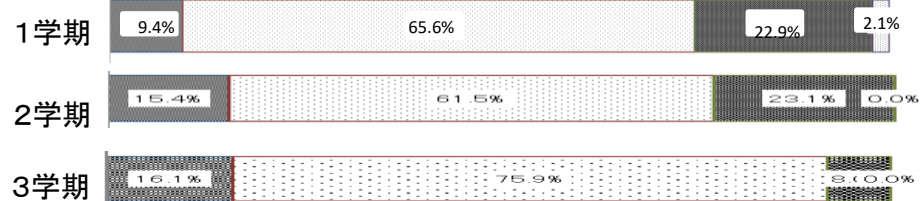
### 児童アンケート

学校であったことを家で話している。



### 保護者アンケート

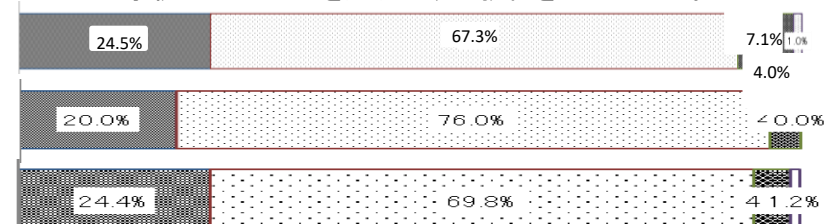
家庭で子どもの話をじっくり聞いている。



## 【学校の対応について】

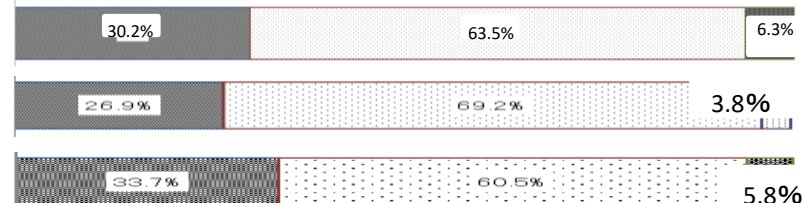
### 保護者アンケート

学校は一人一人を大切にする教育を進めている。



### 保護者アンケート

学校には話しやすい雰囲気があり、丁寧に対応している。



## 【子どもの話を聞く・学校の対応】

児童では「学校であったことを家で話している」で約75%が「話している」と回答しています。保護者では、約90%の方が「家で話を聞いている」と回答しています。子どもは成長するにつれ、学校であったことを話さなくなってくることが多いと思います。年齢や場に応じて褒めたり、叱ったり、励ましたり、見守ったりし、適度な距離を保っていけるといいですね。

「学校は一人一人を大切にする教育を進めている」では、2学期は「できていない」4%、「あまりできていない」0%でしたが、3学期は「できていない」1.2%、「あまりできていない」4.1%となりました。大切にできていないと感じている方がおられることをしっかりと受け止め、教職員一人一人が子どもたちの成長を最大限に伸ばすためにどのようなことが必要なのかを真剣に考え、行動で示していかなければならないと思っています。この分析を生かし、子どもたちの成長と保護者の方や地域の方々の安心を得られるような学校づくりを進めていきたいと考えています。ご協力ありがとうございました。





